

旦野原キャンパス FAB交流会を開催しました 2023.2.1(水)

旦野原キャンパス経済学部第一会議室にて、旦野原キャンパスの新任女性研究者との懇談会「FAB交流会」を開催しました。松浦恵子室長から、当室の事業について説明があり、参加者全員の自己紹介のあと意見交換を行いました。初対面の方がほとんどで、初めはやや硬い雰囲気でしたが、コロナ禍の中で着任された方々に新旧の職場でのお話をお聞きしたり、女性管理職比率についても話題にあがり議論する場面もありました。短い時間の中でしたが、普段顔を合わせる事のない他学部間の女性研究者の交流会ができました。



FAB交流会の様子



(後列左から)渡邊先生、松浦先生、城戸先生、大谷先生、大下先生、上白木先生
(前列左から)古長先生、江藤先生、高先生、佐藤先生、木村先生

日本精神衛生学会第38回大会大会賞に、女性研究者研究費支援を受けた研究者が選ばれました

教育学部 齊藤友子先生

2022年10月30日(日)、教育学部の齊藤友子先生が、日本精神衛生学会第38回大会(神戸市看護大学開催)において、発表演題「コロナ禍における保育者の職業性ストレスと精神健康・離職意向の背景要因の検討」で大会賞を受賞しました。大会賞は本学会で発表された演題の中から、精神衛生の発展に寄与することが特に期待できる研究・活動に対して贈呈されるものです。



齊藤友子先生へのインタビュー

大会賞を受賞した齊藤友子先生▶

■ 受賞の感想をお聞かせ下さい。

日本精神衛生学会は、1985年に「甘えの構造」の著者 土居健郎先生が、学会創設に大変ご尽力され設立された学会です。このような名誉ある学会で、大会賞を頂いたことは、私の今後の研究活動において大変励みになりました。また、この賞を頂いたのは、女性研究者研究費支援のお陰で研究を遂行できたからこそです。関係者の皆さま方に心より感謝と御礼を申し上げます。

■ 研究(活動)のきっかけや、ご苦労、喜びなどお聞かせください。

よく「(子どもに携わる人が)元気でないと、子どもは育たない」という言葉を耳にしますが、これについて国際研究では、エビデンスが示されています。しかし、国内の研究に目を向けると、特に保育従事者の精神健康は、注目されていない現状です。しかも離職率が高く、仕事の量的負担も高い職場であることは知られていますが、それらについて、国内研究ではエビデンスが示されていません。調査を開始したのは2019年からですが、調査の説明の際に、大変興味深く聴いて頂いた園長から、研究について「是非頑張ってください」と言われたことは、研究活動の原動力になりました。

■ 若い人へのメッセージをお願いします。

日常生活に目を向けると、「当たり前」と捉えていた事が、そうではない事がよくあります。是非、「当たり前」として流さず、立ち止って考えてみて欲しいと思います。

■ 大切にしている言葉はありますか。

「感謝」です。私の研究活動は、保育従事者の皆様のご協力なくしては成り立ちませんし、私自身の生活も、両親や夫、子どもの相互の協力がなくしては成り立ちません。「感謝」の気持ちを忘れることなく、現場に還元できるような研究に取り組んでいきたいと思っています。

第12回中塚医学賞に女性研究者2名が選ばれました

2022年11月9日(水)、第12回中塚医学賞(大分大学医学部研究表彰)の表彰式及び受賞者セミナーが行われました。中塚医学賞は、医学部の前身の大分医科大学 中塚正行氏(初代学長)の名を冠して2011年度に創設された医学部研究表彰です。年1回、大学の開学記念日に合わせて、過去2年間に本学医学部において顕著な研究業績を残した研究者を表彰するものです。

今回受賞した、看護学専門分野 看護部 竹下智美看護師長と、生命科学・医学専門分野 循環器内科・臨床検査診断学講座 三好美帆先生にお話を伺いました。

看護部 竹下智美看護師長へのインタビュー

■ 受賞の感想をお聞かせください。

私は、大学院修士課程において、「人工呼吸器離脱プロトコルの有効性の検証」を研究課題として取り組み、今回中塚医学賞をいただくことができました。

人工呼吸管理は、長期に及ぶことで様々な合併症を招くことがあり、できる限り早期に人工呼吸器から離脱できることが重要になります。今回3学会合同で開発されたプロトコルを活用して研究に取り組みました。業務としてプロトコルを活用すること、研究としてデータ収集することは異なり、研究計画段階に苦勞したことを覚えています。研究プロセスを通して研究者としての立ち位置、研究倫理をあらためて深く考えることができました。

論文投稿においては、査読を受け修正を繰り返す過程は大変ではありましたが、推敲を重ね完成・受理された時は、達成感とともに、共著者のご指導・ご助言いただいた方々への感謝の気持ちでいっぱいでした。

研究を通して、探求する面白さを経験でき、この気持ちを忘れずに今後も臨床研究・臨床実践につなげていきたいと思えます。

■ 大切にしている言葉はありますか？

私は日頃から、“タイミングを逃さない看護”を大切にしています。患者さんの病状が悪化するタイミングや、回復に向かうタイミング…その兆候を逃さないことが、患者さんの人生を左右すると思うからです。



看護部
竹下智美看護師長

循環器内科・臨床検査診断学講座 三好美帆先生へのインタビュー

■ 受賞の感想をお聞かせください。

今回中塚医学賞という栄誉ある賞をいただくことができました。大学院生時代に行った研究ですが、形にするにあたって指導いただいた先生方と、病棟で忙しい中データの取得を手伝ってくれた多くの医局員の先生方に感謝の一言です。今回受賞した「心房細動患者における圧受容体反射感受性(BRS)」について検討した研究は、高橋教授、中川教授をはじめ循環器内科の諸先輩方が続けてきたBRSを用いた、大分大学循環器内科の特色ある研究の一環です。BRSの研究を評価していただいたということで、うれしい限りです。

■ 研究(活動)のきっかけや、喜びなどお聞かせください。

臨床を始めた当初は、臨床業務や手技を習得する日々に精いっぱい、臨床が楽しく研究活動に興味を持てなかったのが正直なところでした。医師6年目でアメリカ心臓病学会に参加して、日本の地方大学からも様々な研究成果が発表されているのを見て、大学院へ行って研究を行い、それを世界に発表するというのも大事な仕事だと思えたことが研究のきっかけだと思います。研究は考えていた通りに結果が出ないことも多く一喜一憂ですが、それを乗り越えて形になった時や、このように評価していただいた時はうれしいです。

■ 若い人へのメッセージをお願いします。

若い人へのメッセージとありますが、広い世界を見て、目の前の患者さんのことを考える医師でありたいと思います。

また、研究の芽である臨床での疑問点や新たな観点を大事にしていきたいと思えます。

■ 大切にしている言葉はありますか。

感謝



循環器内科・臨床検査診断学講座
三好美帆先生

医学部医師会奨励賞(若手支援・医学研究表彰)に 女性研究者2名が選ばれました

大分大学医学部医師会は、若手会員に対する学術活動支援のため、医学部医師会奨励賞(若手支援・医学研究表彰)を創設しました。発表した論文や活動報告を審査対象として表彰するもので、今年度は5名の受賞が決まり2022年12月12日(月)に授賞式を開催しました。受賞した女性研究者2名にお話を伺いました。

小児科学講座 前田美和子先生へのインタビュー

■ 受賞時の感想、研究(活動)のきっかけや、喜びなどお聞かせください。

今回、令和4年度医学部医師会奨励賞に選んでいただき大変光栄に思います。大人になると表彰されることはなかなかないので、とてもうれしいです。

この論文は、27年間の大分市の学童期生活習慣病予防検診の身体計測と血液検査のデータを解析したものです。この研究を行うきっかけは、大分市が全国に先駆けて早くから行っている学童期生活習慣病予防検診の詳細を大分から発信したいと思ったからです。大分市の小学5年生の90%近くが受けている検診で、データの分布や肥満の割合、脂質異常の割合は日本人の小児の基準にできると思います。今後は、生活習慣病のリスク因子との関連などを見出していけるといいと思っています。



小児科学講座
前田美和子先生

■ 若い人へのメッセージをお願いします。

医師の仕事はとても大変ですが、若い先生方は苦労しながらも仕事と家庭の両立を頑張っており、とても輝いて見えます。職場、家庭に感謝しながら、使える資源は使いながら、キャリアを磨いていきましょう！

■ 大切にしている言葉はありますか。

自分で大切にしていることは“低空飛行でもいいので飛び続けよう”です。細々とでもやめずに27年間続けてきた仕事を、長い時間がたった今改めて振り返り、とても誇らしく思います。

耳鼻咽喉科学講座 立山香織先生へのインタビュー

■ 受賞時の感想、研究(活動)のきっかけや、喜びなどお聞かせください。

女性医療人キャリア支援センター長の松浦恵子先生のもと、腎臓内科の中田健先生と共に、副センター長として、医療人のワークライフバランスやキャリア継続のために、学生へのキャリア教育やキャリアパス相談会、女性医師交流会などの活動に関わってきました。活動を通して、さまざまな診療科の医師や学生さんと、診療以外の場面で交流することができました(写真:右)。キャリア教育については当センターHPに掲載しております広報紙にまとめましたので、一度ご覧いただければと思います。

(<https://www.oita-carsupport.jp/manage/wp-content/uploads/2022/02/ニュースレターvol24.pdf>)

このような活動は、ボランティア感覚で密かにしておりましたので、表彰していただき嬉しく思います。

■ 若い人へのメッセージをお願いします。

日々の仕事を存分に楽しみましょう。今、置かれた状況に満足している方もそうでない方も、10年後にはきっとそれなりに成長しています！自分自身、そして家族や周りの人を大切に作る時間も大事にしましょう。

■ 大切にしている言葉はありますか。

仕事の上では「プロ意識」のもと、自分の能力(と同時に限界)を把握し、最善を尽くすことが重要と考えています。



耳鼻咽喉科学講座
立山香織先生



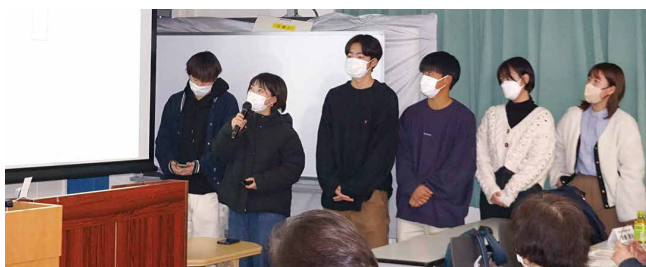
女子学生の皆さんとの
キャリアパス相談会

ダイバーシティ入門

後学期全学共通科目「ダイバーシティ入門」を開講しました。今年度の授業内容は一覧のとおりです。学内教員の他、あまべ文化研究所、大分工業高等専門学校、大分労働局、アイネス、ニッコン(株)、ウーマンメイク(株)からも講師をお招きし、多様な視点からダイバーシティについて学びました。

今回は、3年ぶりにすべて対面での授業となりました。授業の締めくくりとして、後半はグループワークを実施しました。7つのグループに分かれ、それぞれ3つの課題から1つを担当し、課題に対する解決策のプレゼンテーションとポスター作成を行いました。最終審査では、ご参加いただいた外部講師の方や、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)の協力機関の企業の方などにも審査に加わっていただき、最優秀賞、優秀賞、審査員特別賞、ポスター賞の授与がありました。

審査員からは、「ダイバーシティ入門の講義で学んだことは、ここだけで終わらせるのではなく、この後もずっと意識して行ってほしい」「ダイバーシティの事を自分事として考えて多様な社会の中で頑張っていくってほしい」等のコメントをいただきました。



グループ発表の様子

2022年度 後学期 全学共通科目「ダイバーシティ入門」一覧

日付	授業名	授業講師
1 10月5日	オリエンテーション(大下) キャリアを考える(堤)	大下晴美(医) / 堤 紀子(理工)
2 10月12日	ダイバーシティ入門	大下晴美(医)
3 10月19日	「女性学」と「男性学」	城戸照子(経済)
4 10月26日	ダイバーシティ・マネジメントと企業戦略	渡邊博子(経済)
5 11月2日	労働法規とダイバーシティ 雇用の分野における多様性について	大分労働局労働基準部 賃金室長補佐 田口嘉久氏
6 11月9日	農業分野でのダイバーシティ ~ウーマンメイクの経営~	ウーマンメイク株式会社取締役社長 平山亜美氏
7 11月24日	The Reality of Diversity in 2022 : 世界の現状から学べる日本での注意点	大分工業高等専門学校 Tomek Ziemba(トメック・ジエンバ)先生
8 11月30日	世界の多様性から学ぶこと	あまべ文化研究所 代表 岩佐礼子氏
9 12月7日	私のキャリアを通じて伝えられること	ニッコン株式会社取締役社長 佐藤宝恵氏
10 12月14日	「男女共同参画社会に向けた大分県の女性活躍推進の取組」	大分県消費生活・男女共同参画プラザ 女性活躍推進監 河部明美氏 社会保険労務士 篠原文司氏
11 12月21日	グループワーク:(1)オリエンテーション	大下 晴美(医)
12 1月11日	グループワーク:(2)	城戸照子(経済)
13 1月18日	グループワーク:(3)	城戸照子(経済)
14 1月25日	グループ発表(1)予選	大下 晴美(医)
15 2月1日	グループ発表(2)最終審査	大下 晴美(医)



講義担当の松浦先生、大下先生と最優秀賞受賞グループ

ダイバーシティを学ぼう

前学期教養教育科目「大分大学入門」(対象学年:1年生)で、松浦恵子室長が「ダイバーシティを学ぼう」の講義をオンデマンド形式で行いました。

キャリア形成入門

今年度から開講された、後学期全学共通科目「キャリア形成入門」(対象学年:1年生)で、渡邊博子副室長と、理工学部 石川雄一先生が「企業におけるダイバーシティ&インクルージョンについて」の講義をオンデマンド形式で行いました。

大分県消費生活・男女共同参画プラザ(アイネス)主催の“アイデアソン”に、学生が参加しました 2022.11.12(土)

大分県消費生活・男女共同参画プラザ(アイネス)参画推進班主催の、“ジェンダー平等の実現”を学生で考えるアイデアソン、テーマ:「若年層向け 女性に対する暴力防止の広報啓発案」に、経済学部から5名、教育学部から1名、福祉健康科学部から5名の学生が参加しました。SNSでの情報発信や、トイレトペーパーに被害の実例や相談先を掲載するなどの案が発表されました。これに参加した『ダイバーシティ入門』受講生、経済学部1年阿野麻奈美さんは「皆で性暴力について話し合い、対策案を考えました。自分の持っている知識やアイデアだけでは全然足りないことを思い知りました。違う価値観を持つ仲間と共に考えることで、新しい課題や問題点が生じ、性暴力には問題が尽きない、と思いました。このイベントに参加しなかったら得られなかった多くの情報を得ることができ、とても良い経験になりました。普段考えないことについてしっかり向き合う機会となりました」と感想を話しました。



経済学部1年 阿野麻奈美さん

出前型のダイバーシティ入門講義

大分県立佐伯鶴城高等学校 2022.10.4(火)

大分県立佐伯鶴城高等学校の高校1年生学年保護者集会で、「出前型ダイバーシティ入門講義」を行いました。参加者は生徒173名、保護者・教員97名でした。

今年度は、理工学部の石川雄一先生、教育学部の川田菜穂子先生、理工学部の小西美穂子先生が講義を行いました。この他、事前に生徒の皆さんからもらった質問に対し、松浦恵子室長、大下晴美副室長が回答するQ&A動画と、理系女子大学院生2名からの「リケジョ応援メッセージ」動画の放映も行いました。

講義後のアンケートでは、「ホームページを見るだけではわからなかったことも、体験談を聞くことでわかった」、「文理選択の基準がわかり参考になった」等の感想がありました。



会場:さいき城山桜ホールの様子

日本文理大学附属高等学校(佐伯市)
2022.11.15(火)

日本文理大学附属高等学校理科室で、今年度も、おおいた地域連携プラットフォーム主催の、地域人材創出部会・進学率向上ワーキンググループ・日本文理大学附属高校・特別授業—「女子中高生の理系進路選択支援プログラム“ダイバーシティを知らう!!リケイを知らう!”」(参加者:2年生普通科進学コース35名)が開催されました。

本学からは、理工学部 石川雄一先生が「リケジョ就職の話」を、大下晴美先生が「ダイバーシティ入門」の講義を行いました。

この他、別府溝部学園短期大学食物栄養学科の先生と学生による実験や、日本文理大学工学部建築学科の先生と学生による実験が行われました。実施後のアンケートでは、「ダイバーシティについて知ることができた」「色々な考えの人の意見交流によって新しい選択肢に気づけた」という感想がありました。



理工学部
石川雄一先生

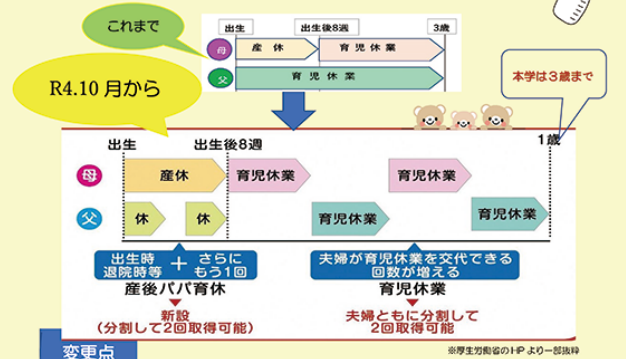


教育学部
川田菜穂子先生



理工学部
小西美穂子先生

出生時育児休業(産後パパ育休)が創設され、育児休業の分割取得が可能となりました!



変更点

- これまでは、パパもママも育児休業は基本1回だけ取得可能でしたが、パパもママも分割して2回取得できるようになりました。
- さらに、パパは出生時育児休業(産後パパ育休)を、子の出生日または出生予定日のいずれか遅い日から8週間を経過する日の翌日までの期間に最大4週間取得可能となりました。分割取得(2回までも可能)です。
※産後パパ育休、育児休業のいずれか最初に取得した5日以内の育児休業は給与支給あり。
- 申出期限は、どちらも休業開始予定の2週間前までです。

詳しくは学内イントラ【育児・介護休業法の改正への対応について】別紙1~4をご覧ください。

【お問い合わせ先】

育児休業の制度に関すること
: (巨野原キャンパス) 総務部人事課人事管理グループ 内線 7408
給付金等に関すること
: (巨野原キャンパス) 総務部人事課共済・給与支給グループ 内線 7419

≪男女共同参画推進室 内線 8573≫

出生時育児休業(産後パパ育休)のチラシを作成しました

2021年6月に「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律(育児・介護休業法)及び「雇用保険法」の一部が改正され、2022年4月1日から段階的に施行されることに伴い、本学でも2022年10月1日施行の事項に対応するため、まず関係規程の一部改正等、学内体制の整備が行われました。これに伴い、男女共同参画推進室では、男性の育児休業取得を進めるため、チラシを作成し、教職員への周知を行いました。

地域開放推進事業(Jr.サイエンス事業)実験動画を撮影しました



理工学部・中江貴志先生

本学の研究推進部産学連携課で実施している、「地域開放推進事業(Jr.サイエンス事業)」について、今年も学内で実験動画作成の募集がありました。男女共同参画推進室からも「リケジョ応援」として応募し、中学・高校の女子生徒とその保護者、及び興味のある方を視聴対象とした、実験動画を作成しました。今回は、理工学部・中江貴志先生の実験動画「楽器で学べる振動の世界」です。作成した動画は、本学Jr.サイエンス事業のホームページに掲載予定です。



医学部女性教授の会を開催しました

2022年3月14日(月)、医学部女性教授の会を開催しました。この会は、女性教授が少ない医学部で、女性研究者の活躍を推進するため設立されたものです。看護学科、医学科の女性教授が集まり、まず看護学科の吉岩教授のご就任を祝いました。その後、女性の登用に関して、また、女性教授の会でできること等を議論しました。他大学等との交流を含めたアウトプットの必要性などさまざまな意見がでました。



(後列左から)三重野教授、井手教授、末弘教授、花田教授、清村教授
(前列左から)原田教授、吉岩教授、松浦教授、中川教授

市長へ大分市「第4次おおいた男女共同参画推進プラン」策定の報告をしました

2022年3月24日(木)、大分市役所において、「第4次おおいた男女共同参画推進プラン」策定の報告会が開催されました。本学の松浦室長が大分市男女共同参画審議会会長として、代表で佐藤大分市長にプラン策定の報告を行いました。その後、市長との意見交換等を行いました。



意見交換会の様子



佐藤市長(右)と松浦室長(左)

大分県高大連携シンポジウムが本学で開催されました

2023年2月18日(土)、経済学部101教室において、「第12回大分県高大連携シンポジウム・高大連携による理系女子育成」が開催されました。基調講演は、佐賀大学ダイバーシティ推進室副室長の荒木 薫先生の「女子中高生の進路選択—その背景と課題—」でした。事例発表は、大分県立豊府高等学校教諭 森 浩之先生の「高校での文理選択の現状について」と、本学理工学部 信岡かおる先生の「進路選択について」でした。シンポジウムのコーディネーターは松浦室長が務めました。県内の中高校生37名を含む107名の参加がありました。意見交換会では、本学の大学院工学研究科女子学生と、理工学部女子学生も加わり、会場からの質問に答える場面がありました。



会場の経済学部101教室



(左から)松浦室長、荒木先生、森先生、信岡先生、堀さん、古川さん